顔面麻痺に対するスプリントの治療効果

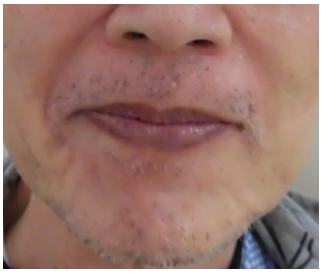
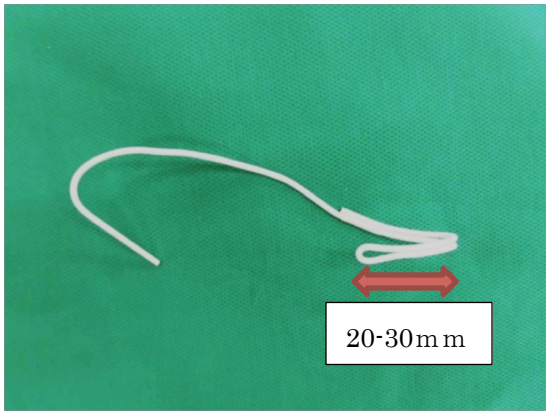
塩川　剛弘・山近　妃呂乃・坪浦　ななえ・下田　和代・三好　正堂

顔面麻痺には中枢性麻痺と末梢性麻痺の 2 つがあり，両者とも一般に回復は良好であるが，中には重度麻痺を残すこともある．脳卒中における顔面麻痺は中枢性麻痺であるが，多くは保存的に治療され，また訓練法の記載は比較的少ない．しかし詳しく聞いてみると，容貌が醜くなるという問題だけでなく「口角から食べ物がこぼれる」,「よだれが出る」,「しゃべりにくい」などを訴えることが少なくない．

脳卒中による顔面麻痺の 3 症例（急性例 2 例，慢性例 1 例）に顔面スプリントを作製し，睡眠以外の時間は食事中も装着した。その結果，食事しやすく，話しやすくなる効果が得られた．慢性例の 1 例は発病後 17 ヶ月以上経過していたにもかかわらず，麻痺の回復も得られた．

（総合リハビリテーション　第 46 巻　第 3 号　2018 年）

装着前

装着時

装着後